
ろくおん通信

10月号

第2号 1986.10.10発行

盲人情報文化センター
録音製作係

編集の立場から

久保 洋子

経験僅か1年の新米編集者ですが、諸先輩に教えて頂き、ご意見を伺う手掛りになればと考え、日頃感じていることを書いてみたいと思います。

1. テープ図書の出来は、ソース・テープできまる。

編集をしていますと、いろいろな方のテープを聴くことが出来ます。お互い生身の人間のすることですから、誤りがあるのは仕方のないことですが、事前の準備不足による誤りや、不用意な雑音などは、残念に思います。訂正箇所も雑音もないソース・テープが出来れば、編集者は失業するかも知れませんが、いいテープ図書が出来るとは確かです。

2. 本に合った読み

リクエスト製作の協力をはじめた頃、

苦い体験をしました。グループの1人が読んだ医学書の校正をしたのですが、中に“腔”がたくさん出て来ました。コウコウ ビコウと読んでいて、疑問に思い辞書を引いたのですが、これが広辞苑でしたから「クウはコウの慣用読み」とありました。後で、医学では「クウ」と読むことを知り、読み手の方は、大変苦勞して訂正されました。以後、専門書は専門の辞書をと、肝に銘じています。

文芸書でも、これは大変難しい問題ですが、「その作者、その時代、その本」にふさわしい読み方があると思います。数ある読みの中からどれを選ぶかは、読み手の感性の問題でもあり、専門家でない私には、どれを正しいと断定する見識も資格もないのですが、

少なくとも、作者、時代、本を意識した配慮は欲しいと思います。そしてこの点に関しても、職員、読み手、校正者、それぞれが持っている“力”を結集して、質の向上を目指したいと思います。

3. 校正表について

校正表は、その1本のテープの誤りを正すだけでなく、読み手、校正者、それぞれの力を磨く場だと考えています。従って、校正する時には、気がついた疑問はどんな小さなことも上げるよう、心がけています。この位と思われることも、確かにありますが、この努力が質の向上につながっていると思うのです。テープの流れをこわしてまで訂正することはなくても、次に生かせることもあると思います。又、校正者が、自身の誤りに気付くこともあるのです。どんなに精一杯しても、所詮、私たちは完璧ではないのですから。

今、私たちの仕事は、量と共に、質の向上を求められていると思います。本を買えば、すぐに読み始められる私たちとちがって、長い時間待って、やっと手に入れた本（テープ）が、少しでも良いものであってほしいという願いは、利用者にとって、切実なものだと思います。

ボランティアの重要な資質の一つに、積極性があります。私達は、自分の意志で、積極的にこの仕事を選びました。ここでもう一步積極的に、周囲を見回してみたいと思います。視覚障害者のためのテープ図書を作るというこの仕事全体の中で、自分の役割は何かを知ることによって、より良い仕事ができるのではないかと考えています。今後、益々積極的に、諸先輩の知識と経験を吸収させていただきたいと思っています。どうか、よろしく願いいたします。 (くぼ ようこ)

先月号では、古谷さんの原稿を掲載させていただきました。ご感想はいかがでしたでしょうか。

「賛否両論」とまではゆかなくとも、もっと皆さんからのご意見を伺うことが出来ればなあ、と考えています。

活動が分担されるにつれ、お互いの連絡の緊密さ、そして話し合いの必要性を最近特に強く感じています。

選書について ～原本は？～

現在盲人情報文化センターでは、内部で選書委員会を設置し選書を行っています。メンバーは点字製作係、読者サービス係、総務係、整理係、録音製作係より選出した担当者により構成されています。開催は2カ月に一度の割合で、録音用原本としては20タイトル（年間120タイトル）が選定されます。

また録音製作係では、この委員会に提出する推薦図書を選定のため、月に一度の割合で、2名のボランティアの方に参加していただき、係独自の選書を行っています。各自のリストアップ作品を検討し、録音図書として適当かどうか、またほかの施設で製作されていないかなどをチェックしています。

★年度内にマスターテープ2万本？

マスターテープの1本目は昭和35年（1960年）に製作されました。

今年で26年になり今日（10月17日）現在で19,568本。この中には外部からの導入テープもあるものの、年度内には2万本か。（タイトル数でこれだけあればナア＝ため息）

★お知らせ

今年の5月より講習を受けられてい

た講習生の皆さんが、10月より朝日ジャーナルの録音に入ります。これは一昨年より、講習の一環として実施しているもので、機器の操作、マイクロホンなどに早く慣れていただくことを目的としています。

★個人ケアについて

新しい本（蔵書、リクエスト図書）の録音にとりかかる前に、個人ケアを受けていただくようお願いしております。時間は1人30分～1時間程度です。予約は電話で出来ますので係までご相談下さい。11月の予定は下記の通りです。

11. 1	（土）	13:30～
11. 4	（火）	14:00～
11. 8	（土）	13:30～
11.11	（火）	15:30～
11.12	（水）	13:30～
11.18	（火）	14:00～
11.22	（土）	13:30～
11.25	（火）	14:00～
11.29	（土）	13:30～

★月例研究会のご報告

10月1日（水）午後1時より3時まで、図・表の読み方の研究会を行い

ました。参加者は16人と前回よりやや増えています。事前にワンブックで資料をお配りしていただきましたので、2～3人の方に読んでいただきながら、ひとつひとつの図・表についてより適切な読み方を皆で意見を出し合いました。参加者からは、いろいろな人の読み方を聞くことによってより適切な言葉を見えてきた、との感想が出されています。研究会の録音テープをご希望の方は係までお申し出ください。

★11月の月例会のご案内

11月の月例会の日程は次の通りです。

月例音訳技術研究会

11月11日(火) 13:30～15:30

月例録音研究会

11月5日(水) 13:00～15:00

「録音技術の基礎知識」

機械操作とその取扱について日頃疑問に感じていることなどがありましたら、できるだけまとめておいてください。

★調査用資料のご紹介

『現代地名よみかた大辞典』

- ・全七巻(七巻目は索引)
- ・日本アソシエーツ社刊
- ・収録数=約31万件

- ・見出し=頭字の画数順配列
- ・特徴=読みの予測のつかない地名も画数で検索することが出来る。

『六丁目』何て読む？

…前略…「六丁目」はその読み方は一つと思ひ込み、それならあえて収録することもなかろうと、対象からはずしてしまつた。ところが調べていくうちに、二通りあるとわかり、念のためにと現地の役場にも問い合わせたところ、「昔から、ろくちょうのめ、と言っています」とのご返事。あわてて収録し直した、といういきさつがある。

…後略

(日本経済新聞 北原国彦氏記事より)

原稿募集

皆さんが、日常の活動で疑問に感じていること、係に対する要望やご意見、掲載された原稿に対するご意見等なんでも結構です。係までお寄せ下さい。